

システムレポートイングリファレンス

# Novell. ZENworks® 10 Asset Management SP2

10.2

2009年5月27日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2008-2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、「[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/)」の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell のマニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	7
<b>1 概要</b>	<b>9</b>
1.1 ZENworks レポーティングサーバのレポート	9
1.2 インベントリレポート	10
1.3 Web Intelligence ドキュメント	10
1.4 ユニバース	10
1.5 Central Configuration Manager	10
1.6 レポーティング用語	11
<b>2 システムレポーティングの設定</b>	<b>13</b>
2.1 レポーティング権の理解と割り当て	13
2.1.1 レポーティング権の理解	13
2.1.2 レポーティングフォルダの理解	14
2.1.3 事前定義されたレポートの理解	14
2.1.4 管理者へのレポーティング権の割り当て	16
2.2 レポートフォルダの同期化	17
2.3 ZENworks レポーティングサーバのパスフレーズの変更	17
2.4 ZENworks レポーティングサーバからのレポートのエクスポートの設定	18
2.4.1 ZENworks 管理者に電子メール通知を送信するように ZENworks レポーティングサーバを設定する	18
2.4.2 ZENworks レポーティングサーバを設定して宛先のファイル保存場所を設定する	20
2.4.3 ZENworks レポートサーバを設定して宛先 FTP サーバを設定する	21
2.5 ZENworks レポーティングサーバ InfoView の起動	22
2.6 ZENworks レポーティングサーバ InfoView 初期設定の設定	22
<b>3 レポートの作成と管理</b>	<b>25</b>
3.1 カスタムレポート定義の作成	25
3.2 レポートの管理	25
3.3 レポートディスカッションの管理	26
<b>4 システムレポーティングのトラブルシューティング</b>	<b>27</b>
4.1 システムレポーティングのエラーメッセージ	27
4.2 システムレポーティングのトラブルシューティング方法	29



# このガイドについて

この『Novell ZENworks 10 Asset Management システムレポーティングリファレンス』には、ZENwork レポーティングサーバを使用したレポートの作成と管理の成功に役立つ情報が含まれています。それらの情報は、次の章で構成されています。

- ◆ 9 ページの第 1 章「概要」
- ◆ 13 ページの第 2 章「システムレポーティングの設定」
- ◆ 25 ページの第 3 章「レポートの作成と管理」
- ◆ 27 ページの第 4 章「システムレポーティングのトラブルシューティング」

## 対象読者

このガイドは、Novell® ZENworks® の管理者を対象としています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 追加のマニュアル

ZENworks 10 Asset Management には、製品の概要とその実装方法を説明したその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) が用意されています。追加のマニュアルについては、[ZENworks 10 Asset Management のマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/zam10/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zam10/index.html) を参照してください。

## マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (\\) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux\* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。



Novell® ZENworks® 10 Asset Management SP2 を使用すると、管理ゾーン内のアクティビティをシステムレポートを通じて監視できます。

レポートには、大量のインベントリ、パッケージング、その他のデバイス、情報の詳細を含めることができます。新規レポートの作成、既存のレポートの編集、レポートの削除、レポートのスケジュールを実行できます。独自の基準に基づいてレポートを整理および保存するためのフォルダを作成できます。

次のセクションには、レポートニングの概念を理解する上で役立つ追加情報が記載されています。

- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「ZENworks レポートニングサーバのレポート」
- ◆ 10 ページのセクション 1.2 「インベントリレポート」
- ◆ 10 ページのセクション 1.3 「Web Intelligence ドキュメント」
- ◆ 10 ページのセクション 1.4 「ユニバース」
- ◆ 10 ページのセクション 1.5 「Central Configuration Manager」
- ◆ 11 ページのセクション 1.6 「レポートニング用語」

## 1.1 ZENworks レポートニングサーバのレポート

ZENworks レポートニングサーバは、ZENworks レポートニングサーバ InfoView と呼ばれる Web インタフェースを備えています。InfoView は、Web インテリジェンス \* ドキュメント、スプレッドシートなどのドキュメントをはじめとして、企業にとって有用な幅広いビジネス情報を提供します。ZENworks レポートニングサーバを使用すると、情報にアクセスし、ニーズに合わせて整理できます。

ZENworks レポートニングサーバ InfoView には次のような機能があります。

- ◆ 検出されたデバイス、インベントリ、アセット管理、パッチ管理、ZENworks システムメッセージのレポート定義を作成する。
- ◆ レポートをスケジュールする。
- ◆ レポートの履歴を保持する。
- ◆ Microsoft\* Excel\*、Adobe\* PDF、BusinessObjects\* WID\* などのさまざまなフォーマットでレポートをエクスポートする。
- ◆ レポートを印刷する。
- ◆ 電子メールを介してレポートを配布する。
- ◆ レポートに関するディスカッションを開催する。

ZENworks レポートニングサーバ InfoView では、事前定義されたレポートとカスタムレポートを管理できます。事前定義されたレポートには、ZENworks Configuration Management に付属する ZENworks Asset Management に付属するデバイス、ライオンズセンシング、およびメッセージに関するレポート定義が含まれています。

## 1.2 インベントリレポート

ZENworks AssetManagement を使用すると、ハードウェア、ソフトウェア、および人口統計情報に関するデータを含む、管理ゾーン内のすべてのデバイスのインベントリを取得できます。インベントリスキャンにより、管理ゾーンにある管理対象デバイスからデータを収集できます。インベントリのみをスキャンを使用すると、インベントリモジュールはインストールされているにもかかわらず、ZENworks Adaptive Agent はインストールされていないゾーン内のデバイスをスキャンできます。このタイプのスキャンは、Windows\*、NetWare®、および Mac OS\*X が実行されているデバイスで便利です。

インベントリレポートの詳細については、『ZENworks 10 アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

## 1.3 Web Intelligence ドキュメント

Web インテリジェンスは、使いやすく柔軟性の高いインタラクティブなユーザインタフェースを備えており、Web 上や、セキュアなイントラネットおよびエクストラネット上で、データのレポートを作成および分析できます。Web インテリジェンスドキュメントを作成するには、ZENworks レポートングサーバ InfoView で ZENworks ユニバースを選択し、1つ以上のクエリを作成して、ドキュメントのデータを定義します。

## 1.4 ユニバース

ユニバースは Business Objects の特許技術で、ユーザとデータベース間のセマンティック層として機能します。ユニバースは次のものを含むファイルです。

- ◆ データベース内の実際の SQL 構造 (カラム、テーブル、データベース関数など) にマップされた SQL 構造 (オブジェクト)。オブジェクトはクラスにグループ化されます。オブジェクトおよびクラスは両方とも Web インテリジェンスユーザに対して可視になっています。
- ◆ テーブルおよびジョインのスキーマは、データベース内で使用されます。オブジェクトはスキーマに含めるデータベース構造から作成されます。このスキーマは Designer ユーザにのみ利用可能です。Web Intelligence および Desktop Intelligence\* ユーザが参照することはできません。

Web Intelligence ユーザは、ユニバースに接続し、データベースに対してクエリを実行します。ユーザはユニバース内のオブジェクトを使用してデータ分析やレポート作成を実行できます。データベース内の下層にあるデータ構造を参照したり、知る必要はありません。

ユニバースは、Web Intelligence ユーザがデータベースに対してクエリを実行し、レポート作成やデータ分析を実行できるインタフェースを提供します。

## 1.5 Central Configuration Manager

Central Configuration Manager は Windows 上のサーバ管理ツールで、Server Intelligence Agent を開始または停止できます。

Central Configuration Manager の詳細については、『BusinessObjects Enterprise XI 3.1 Administrator's Guide ([http://help.sap.com/businessobject/product\\_guides/boexir31/en/xi3-1\\_bip\\_admin\\_en.pdf](http://help.sap.com/businessobject/product_guides/boexir31/en/xi3-1_bip_admin_en.pdf))』を参照してください。

## 1.6 レポートینگ用語

次の表は、ZENworks レポートینگサーバのレポートに関連する用語を示しています。

表 1-1 ZENworks レポートینگ用語

用語	説明
ZENworks レポートینگサーバ InfoView	ZENworks レポートینگサーバを通じてレポートを操作するためのメインユーザインタフェース。ZENworks レポートینگサーバ InfoView は、Web ブラウザ内で動作し、レポートを表示、エクスポート、印刷、およびスケジュールする機能を提供します。
ユニバース	データベース内で使用されるテーブルと結合の SQL 構造およびスキーマを含むファイル。
Web Intelligence ドキュメント	ZENworks レポートینگサーバ InfoView でユニバースを選択し、1つ以上のクエリを作成して、ドキュメントのデータコンテンツを定義することで生成されるレポート。
レポート定義	データベースフィールドなどのレポート情報が含まれる Web Intelligence ドキュメント。
レポートインスタンス	レポートインスタンスは、スケジュールされたレポートを実行すると作成されます。レポートインスタンスには、レポートを実行したときに使用可能なデータのみが含まれます。最新のレポートインスタンスには、最新のデータが含まれます。
管理者アカウント	ユーザ名として Administrator を使用して ZENworks レポートینگサーバにログインしている個人。



# システムレポートिंगの設定

# 2

ZENworks レポートングサーバのレポートを生成する前に、次のセクションに記載されている情報を確認してください。

- ◆ 13 ページのセクション 2.1 「レポートング権の理解と割り当て」
- ◆ 17 ページのセクション 2.2 「レポートフォルダの同期化」
- ◆ 17 ページのセクション 2.3 「ZENworks レポートングサーバのパスフレーズの変更」
- ◆ 18 ページのセクション 2.4 「ZENworks レポートングサーバからのレポートのエクスポートの設定」
- ◆ 22 ページのセクション 2.5 「ZENworks レポートングサーバ InfoView の起動」
- ◆ 22 ページのセクション 2.6 「ZENworks レポートングサーバ InfoView 初期設定の設定」

## 2.1 レポートング権の理解と割り当て

次のセクションでは、ZENworks<sup>®</sup> 管理者が使用できるレポートング権について詳しく説明します。

- ◆ 13 ページのセクション 2.1.1 「レポートング権の理解」
- ◆ 14 ページのセクション 2.1.2 「レポートングフォルダの理解」
- ◆ 14 ページのセクション 2.1.3 「事前定義されたレポートの理解」
- ◆ 16 ページのセクション 2.1.4 「管理者へのレポートング権の割り当て」

### 2.1.1 レポートング権の理解

ZENworks のスーパー管理者は、フォルダまたは Web インテリジェンスドキュメントのレポートの実行 / 発行権またはレポートの作成 / 削除権を他の管理者に割り当てることができます。

管理者は、特別な権利がフォルダに割り当てられている場合、そのフォルダに含まれるサブフォルダやレポートは、すべて同じ権利を持ちます。ただし、サブフォルダやレポートに特定の権利が割り当てられている場合を除きます。管理者に明示的に権利が割り当てられていない場合、管理者はすべてのレポートのリストを表示することしかできません。

- ◆ **レポートの実行 / 発行権** : 管理者は、レポートをスケジュールしたり、履歴レポートを管理したりできます。この権利では、権利が付与されているフォルダ内のレポートやフォルダを作成または削除することはできません。ただし、管理者はコピー先フォルダで作成 / 削除権を持っている場合は、レポートを別のフォルダにコピーできます。
- ◆ **レポートの作成 / 削除権** : レポートの実行 / 発行権を含みます。管理者は、権利が付与されているフォルダ内に含まれる Web Intelligence ドキュメントやフォルダを作成、変更、または削除できます。

レポート権の割り当て方法の詳細については、16 ページのセクション 2.1.4 「管理者へのレポートング権の割り当て」を参照してください。

## 2.1.2 レポーティングフォルダの理解

ZENworks レポーティングには、パーソナルフォルダのほかに、レポートを作成および整理するための共有フォルダもあります。パーソナルフォルダ内に作成したレポートはその管理者個人のもので、他の管理者と共有したり、他の管理者が表示したりすることはできません。他の管理者がアクセスできるレポートは、共有フォルダ内に作成したレポートだけです。

ZENworks レポーティングサーバでは、次のレポートフォルダを使用できます。

- ◆ **お気に入りフォルダ**：お気に入りフォルダは管理者個人のフォルダです。このフォルダは、レポートの作成 / 削除権またはレポートの実行 / 発行権を持つ管理者が使用できます。管理者は、レポートの作成 / 削除権を持っている場合にのみ、このフォルダ内にレポートを保存できます。サーバ上の他の管理者がこのフォルダを参照することはできません。

お気に入りフォルダに対してレポートの作成 / 削除権を持つ管理者は、カスタマイズした InfoView ページレイアウトをお気に入りフォルダに保存することもできます。

InfoView ページレイアウトのカスタマイズの詳細については、『[BusinessObjects Enterprise XI 3.1 InfoView ユーザーズガイド](http://help.sap.com/businessobject/product_guides/boexir31/en/xi3-1_bip_user_en.pdf)』（[http://help.sap.com/businessobject/product\\_guides/boexir31/en/xi3-1\\_bip\\_user\\_en.pdf](http://help.sap.com/businessobject/product_guides/boexir31/en/xi3-1_bip_user_en.pdf)）を参照してください。

- ◆ **Novell ZENworks レポートフォルダ**：これは、ZENworks レポーティングサーバ上の ZENworks 管理者すべてがアクセスできる共有フォルダです。このフォルダは、カスタムレポートサブフォルダおよび事前定義されたレポートサブフォルダで構成されます。
  - ◆ **事前定義されたレポートフォルダ**：事前定義されたレポートフォルダには、製品にバンドルされているレポートが格納されます。このフォルダとその内容には、サーバ上のすべての管理者がアクセスできます。管理者は、レポートの実行 / 発行権が割り当てられている場合にのみ、これらのレポートの履歴インスタンスをスケジュール、表示、および管理できます。ただし、これらのレポートを変更、作成、または削除することはできません。

事前定義されたレポートフォルダにレポートの作成 / 削除権を割り当てても、フォルダに適用されるのはレポートの実行 / 発行権だけです。

事前定義されたレポートフォルダ内にある各レポートのレポート定義については、[14 ページのセクション 2.1.3 「事前定義されたレポートの理解」](#)を参照してください。
  - ◆ **カスタムレポートフォルダ**：レポートの作成 / 削除権を持つ管理者は、カスタムレポートフォルダ内にサブフォルダやレポートを作成し、レポーティング権に基づいて他の ZENworks 管理者と共有することができます。

## 2.1.3 事前定義されたレポートの理解

事前定義されたレポートフォルダには、検出されたデバイスおよびアセット管理向けの事前定義されたレポートが含まれています。

ZENworks Standard Templates フォルダには、A4- 横向き、A4- 縦向き、レター - 横向き、レター - 縦向きフォーマットが含まれています。これらのフォーマットでカスタマイズしたレポートを生成できます。テンプレートの使用の詳細については、[15 ページの「ZENworks 標準テンプレートを使用したレポートの作成」](#)を参照してください。

事前定義されたレポートのそれぞれのレポート定義の詳細については、次の表を参照してください。

表 2-1 定義済みレポート

定義済みレポート	説明
Asset Management	『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』を参照してください。
検出済みデバイス	『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』の「定義済みレポート」を参照してください。
ZENworks システム	<p>このフォルダには、デバイスリスト、不適合デバイス、ZENworks ライセンス情報、ZENworks メッセージ、ZENworks サーバ統計レポートが含まれます。</p> <p>デバイスリストおよび不適合デバイスレポートの詳細は、定義済みレポートのZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンスを参照してください。</p> <p>ZENworks ライセンス情報レポートについての詳細は、『ZENworks 製品のライセンス登録』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。</p> <p>ZENworks メッセージレポートについての詳細は、『メッセージログ』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。</p> <p>ZENworks サーバ統計レポートについての詳細は、『ZENworks サーバ』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。</p>

## ZENworks 標準テンプレートを使用したレポートの作成

[ZENworks Standard Templates] フォルダのテンプレートを使用するには、[Web Intelligence(Web インテリジェンス)] 初期設定の [Select a default creation/editing tool( デフォルトの作成/編集ツールを選択)] オプションを [詳細] に設定します。初期設定の設定方法は、22 ページのセクション 2.6 「ZENworks レポートニングサーバ InfoView 初期設定の設定」を参照してください。

テンプレートを使用してレポートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks レポートニングサーバパネルで、[ZENworks レポートニングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポートニングサーバ InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] > [事前定義されたレポート] > [ZENworks Standard Templates] の順にアクセスして、該当するテンプレートを選択し、[Organize( 整理)] > [コピー] の順にクリックします。
- 4 テンプレートを書き込み権限のあるカスタマイズしたレポートフォルダに貼り付けます。

- 5 カスタマイズしたレポートフォルダでテンプレートを選択して、[アクション] > [プロパティ] の順にクリックしてテンプレートのタイトルを編集し、新しいレポートの名前を指定して [OK] をクリックします。
- 6 テンプレートを選択して、[アクション] > [変更] の順にクリックします。
- 7 ツールバーの [Edit Query(クエリの編集)] をクリックします。
- 8 [Results Objects(結果オブジェクト)] ペインにあるオブジェクトを削除します。
- 9 オブジェクトを ZENworks ユニバースから [Results Objects(結果オブジェクト)] ペインにドラッグして、レポートを作成します。
- 10 [クエリの実行] をクリックします。
- 11 左側のペインの [データ] タブをクリックして、オブジェクトを [データ] パネルから右側のレポートにドラッグします。
- 12 レポートを保存します。

## 2.1.4 管理者へのレポートイング権の割り当て

デフォルトではスーパー管理者は、事前定義されたレポートフォルダに対してはレポートの実行 / 発行権、カスタムレポートフォルダとお気に入りフォルダに対してはレポートの作成 / 削除権をそれぞれ持っています。これらの権利をスーパー管理者が変更または上書きすることはできません。

事前定義されたレポートフォルダ、カスタムレポートフォルダ、およびお気に入りフォルダに対して特定の権利を他の管理者に割り当てる必要があります。

これらのレポートイング権は、管理者に割り当て可能な役割内でも指定できます。役割の詳細については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「[管理者の役割の管理](#)」を参照してください。

レポートイング権を管理者に割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルで、レポートイング権を割り当てる管理者を選択します。
- 3 [割り当てられた権利] パネルで [追加] をクリックし、[レポートイング権] を選択して [レポートイング権] ダイアログボックスを表示します。
- 4 [追加] をクリックして、管理者のレポートイング権を割り当てるフォルダまたはレポートをブラウズして選択します。

レポートフォルダに割り当てた権利は、お気に入りフォルダ、カスタムフォルダ、および事前定義されたレポートフォルダにも自動的に適用されます。事前定義されたレポートフォルダおよびお気に入りフォルダのコンテンツに個々に権利を割り当てることはできません。

- 5 割り当てるレポートイング権を選択します。  
レポートに対するレポートの作成 / 削除権およびレポートの実行 / 発行権を管理者に許可または拒否できます。
- 6 [OK] をクリックします。

## 2.2 レポートフォルダの同期化

ZENworks スーパー管理者がレポートフォルダおよび Web インテリジェンスドキュメントに対するレポート権を他の管理者に付与できるようにするには、ZENworks レポートサーバー InfoView で作成したレポートフォルダおよび Web インテリジェンスドキュメントを、ZENworks Asset Management と同期する必要があります。ZENworks レポートサーバー InfoView は、この同期間隔を設定します。また、手動でこの同期を設定することもできます。

同期間隔を手動で設定するには、次の操作を実行します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで [レポートサービス] をクリックします。
- 3 [フォルダ同期スケジュール] をクリックして [フォルダ同期スケジュール] ページを表示します。
- 4 ZENworks レポートサーバー InfoView で作成したカスタムレポートフォルダを ZENworks コントロールセンターと同期する更新間隔を指定します。デフォルトのリフレッシュ間隔は 5 分です。
- 5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

zman コマンドラインユーティリティを使用してレポートフォルダを同期することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「レポートコマンド」を参照してください。

---

**重要:** ZENworks レポートサーバーで、フォルダ内に同じ名前のサブフォルダとレポートファイルの両方がある場合、ZENworks Asset Management と同期されるのは、最初に作成されたオブジェクトだけです。したがって、レポートおよびレポートフォルダを同じ名前で作成しないことをお勧めします。

---

## 2.3 ZENworks レポートサーバーのパスフレーズの変更

ZENworks コントロールセンターから ZENworks レポートサーバー InfoView を起動する場合、ZENworks プライマリサーバーは、自動的に、パスフレーズを使用して ZENworks レポートサーバーに対して認証を行い、ZENworks レポートサーバー InfoView を起動します。このパスフレーズは自動的に生成され、ZENworks レポートサーバーのインストール時に設定されます。スーパー管理者はこのパスフレーズを新しいランダムな値に変更できます。

パスフレーズを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで [レポートサービス] をクリックします。
- 3 [ZENworks レポートサーバーのパスフレーズをリセット] をクリックして、[ZENworks レポートサーバーのパスフレーズをリセット] ページを表示します。
- 4 [はい] オプションをオンにしてパスフレーズを変更し、[適用] をクリックします。

## 2.4 ZENworks レポートティングサーバからのレポートのエクスポートの設定

エクスポート先にファイルの保存場所または FTP サーバを設定することで、電子メールでレポートをエクスポートするように ZENworks レポートティングサーバを設定できます。

次のセクションをよく読んで、レポートのさまざまなエクスポート方法を理解してください。

- ◆ 18 ページのセクション 2.4.1 「ZENworks 管理者に電子メール通知を送信するように ZENworks レポートティングサーバを設定する」
- ◆ 20 ページのセクション 2.4.2 「ZENworks レポートティングサーバを設定して宛先のファイル保存場所を設定する」
- ◆ 21 ページのセクション 2.4.3 「ZENworks レポートサーバを設定して宛先 FTP サーバを設定する」

### 2.4.1 ZENworks 管理者に電子メール通知を送信するように ZENworks レポートティングサーバを設定する

ZENworks レポートティングサーバ InfoView で作成したレポートを、電子メールに自動添付で配布できます。

ZENworks 管理者に電子メール通知を送信するように ZENworks レポートティングサーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで [レポートティングサービス] をクリックします。
- 3 [電子メール通知の設定] をクリックして [電子メール通知の設定] ページを表示します。
- 4 次のフィールドに入力します。

**送信者:** 受信者の電子メールアドレスを指定します。

**宛先:** レポートを送信する受信者の電子メールアドレスを指定します。カンマ (,) で区切れば、複数の電子メールアドレスを指定できます。

**CC:** レポートのカーボンコピーを送信する受信者の電子メールアドレスを指定します。カンマ (,) で区切れば、複数の電子メールアドレスを指定できます。

**件名:** 電子メールの件名を指定します。定義済みのマクロを使用して件名を指定することもできます。定義済みのマクロを使用して件名を指定することもできます。☒ をクリックして、使用する変数を選択します。次の表は、さまざまな変数とそれぞれのマクロを示しています。

変数	[件名] フィールドに表示されるマクロ	説明
役職	%SI_NAME%	レポートの名前です。
ID	%SI_ID%	レポート ID です。
所有者	%SI_OWNER%	レポートの所有者の名前です。

変数	[件名] フィールドに表示されるマクロ	説明
日付 / 時間	%SI_STARTTIME%	レポートがスケジュールされている日付と時間です。
ユーザのフル ネーム	%SI_USERFULLNAME%	レポートをスケジュールして送信する管理者の名前です。
電子メールアドレス	%SI_EMAIL_ADDRESS%	レポートをスケジュールして送信する管理者の電子メールアドレスです。

**メッセージ:** 送信するメッセージを指定します。定義済みのマクロを使用して、メッセージを送信することもできます。🔗をクリックして、使用する変数を選択します。次の表は、さまざまな変数とそれぞれのマクロを示しています。

変数	[件名] フィールドに表示されるマクロ	説明
役職	%SI_NAME%	レポートの名前です。
ID	%SI_ID%	レポート ID です。
所有者	%SI_OWNER%	レポートの所有者の名前です。
日付 / 時間	%SI_STARTTIME%	レポートがスケジュールされている日付と時間です。
ユーザのフル ネーム	%SI_USERFULLNAME%	レポートをスケジュールして送信する管理者の名前です。
電子メールアドレス	%SI_EMAIL_ADDRESS%	レポートをスケジュールして送信する管理者の電子メールアドレスです。
ビューアハイ パーリンク	%SI_VIEWER_URL%	電子メールの受信者がレポートを表示するために使用するビューアの URL です。

**レポートインスタンスを電子メールメッセージに添付する:** レポートのインスタンスを電子メールに添付する場合は、このオプションを選択して次の設定を設定します。

- ◆ **デフォルトのファイル名 (ランダムに生成) を使用する:** このオプションは、レポートインスタンスにデフォルトの名前を割り当てる場合に選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。
- ◆ **ファイル名を指定する:** このオプションは、レポートインスタンスの名前を指定する場合に選択します。定義済みのマクロを使用して、ファイル名を作成することもできます。定義済みのマクロを使用して、ファイル名を作成することもできます。🔗をクリックして、使用する変数を選択します。次の表は、さまざまな変数とそれぞれのマクロを示しています。

変数	[件名] フィールドに表示されるマクロ	説明
役職	%SI_NAME%	レポートの名前がファイル名に追加されます。
ID	%SI_ID%	レポートの ID がファイル名に追加されます。
所有者	%SI_OWNER%	レポート所有者の名前がファイル名に追加されます。
日付 / 時間	%SI_STARTTIME%	レポートのスケジュール日時がファイル名に追加されます。
ユーザのフル ネーム	%SI_USERFULLNAME%	レポートをスケジュールして送信する管理者の名前を追加します。
電子メールア ドレス	%SI_EMAIL_ADDRESS %	レポートをスケジュールして送信する管理者の電子メールアドレスをファイル名に追加します。
ファイル拡張 子 (File Extension)	%EXT%	.ext 拡張子をファイル名に追加します。

- **ファイル拡張子の追加** : ファイル拡張子をレポートインスタンスの名前に追加する場合、このオプションを選択します。

5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

## 2.4.2 ZENworks レポーティングサーバを設定して宛先のファイル保存場所を設定する

ZENworks レポーティングサーバまたはその他のリモートサーバ上にレポートインスタンス用の宛先ディレクトリを指定できます。

ZENworks レポーティングサーバを設定してファイルの保存場所を指定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで [レポーティングサービス] をクリックします。
- 3 [ファイルの場所の通知設定] をクリックして、[ファイルの場所の通知設定] ページを表示します。
- 4 次のフィールドに入力します。

**ディレクトリ** : レポートインスタンスを保存する宛先デバイス上にあるディレクトリのパスを指定します。

**ファイル名** : デフォルト名を選択するか、またはレポートインスタンスの名前を指定できます。

**デフォルトのファイル名 (ランダムに生成) を使用する** : このオプションは、レポートインスタンスにデフォルト名を割り当てる場合に選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。

**ファイル名を指定する：**このオプションを選択し、レポートインスタンスの名前を指定します。

- ◆ **ファイル拡張子を追加する：**ファイル拡張子をレポートインスタンスの名前に追加する場合、このオプションを選択します。

**ユーザ名：**宛先ディレクトリに対してファイルの書き込み権限を持っているユーザ名を指定します。

**パスワード：**指定したユーザ名のパスワードを指定します。

### 2.4.3 ZENworks レポートサーバを設定して宛先 FTP サーバを設定する

レポートインスタンスを転送する FTP サーバ上に宛先を指定できます。

ZENworks レポートサーバを設定して保存場所を指定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで [レポートサービス] をクリックします。
- 3 [FTP サーバ通知設定] をクリックして、[FTP サーバ通知設定] ページを表示します。
- 4 次のフィールドに入力します。

**ホスト：**レポートインスタンスを転送する FTP サーバのホスト名を指定します。

**ポート：**FTP サーバが動作しているポートを指定します。デフォルトのポートは 21 です。

**ユーザ名：**FTP サーバにレポートインスタンスを書き込む権限を持っているユーザ名を指定します。

**パスワード：**指定したユーザ名のパスワードを指定します。

**アカウント：**標準 FTP プロトコルの一部である FTP アカウント情報を指定します。この情報は FTP サーバでその情報が必要な場合にのみ指定します。

**ディレクトリ：**レポートインスタンスを保存する FTP サーバのディレクトリのパスを指定します。

**ファイル名：**デフォルト名を選択するか、またはレポートインスタンスの名前を指定できます。

**自動生成：**このオプションは、レポートインスタンスにデフォルト名を割り当てる場合に選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。

**ファイル名を指定する：**このオプションを選択し、レポートインスタンスの名前を指定します。

- ◆ **ファイル拡張子を追加する：**ファイル拡張子をレポートインスタンスの名前に追加する場合、このオプションを選択します。

## 2.5 ZENworks レポートिंगサーバ InfoView の起動

ZENworks レポートिंगサーバ InfoView は、ZENworks コントロールセンターを経由しないと起動できません。ZENworks コントロールセンターにログインしている管理者は、ZENworks レポートिंगサーバに自動的にログインします。

ZENworks レポートिंगサーバ InfoView を ZENworks コントロールセンターから起動するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks レポートिंगサーバの [レポートिंग] パネルで、[ZENworks レポートिंगサーバ InfoView] をクリックします。

ZENworks レポートिंगサーバ InfoView ページに、*Novell ZENworks Reports* フォルダが初期ビューとして表示されます。

---

**注:** 初期画面の設定を変更するには、ZENworks レポートिंगサーバ InfoView の [初期設定] ページで初期設定を行ってください。詳細については、[22 ページのセクション 2.6 「ZENworks レポートिंगサーバ InfoView 初期設定の設定」](#) を参照してください。

---

ZENworks レポートिंगサーバ InfoView の操作の詳細については、『[BusinessObjects Enterprise XI 3.1 InfoView ユーザーズガイド](http://help.sap.com/businessobject/product_guides/boexir31/en/xi3-1_bip_user_en.pdf)』([http://help.sap.com/businessobject/product\\_guides/boexir31/en/xi3-1\\_bip\\_user\\_en.pdf](http://help.sap.com/businessobject/product_guides/boexir31/en/xi3-1_bip_user_en.pdf)) を参照してください。

## 2.6 ZENworks レポートिंगサーバ InfoView 初期設定の設定

初期設定により、ZENworks レポートिंगサーバ InfoView をパーソナライズできます。ZENworks レポートिंगサーバ InfoView では、Web インテリジェンスドキュメントの表示全般および形式に関する初期設定を行えます。Web インテリジェンスの初期設定の詳細については、『[BusinessObjects Enterprise XI 3.1 InfoView ユーザーズガイド \(http://help.sap.com/businessobject/product\\_guides/boexir31/en/xi3-1\\_bip\\_user\\_en.pdf\)](http://help.sap.com/businessobject/product_guides/boexir31/en/xi3-1_bip_user_en.pdf)』を参照してください。

---

**注:** [] 初期設定は、ZENworks Asset Management ではサポートされていません。

---

一部の初期設定は ZENworks レポートिंगサーバのインストール時にデフォルトで設定されます。ただし、これらの初期設定はニーズに合わせて変更できます。初期設定は、ZENworks レポートिंगサーバ InfoView でオブジェクトの操作を始める前に設定する必要があります。

次の表には、ZENworks レポートिंगサーバのインストール時に、ZENworks レポートिंगサーバ InfoView の [初期設定] ページでデフォルトで選択される初期設定のリストが示されています。

表 2-2 初期設定とそのデフォルト設定

設定項目	オプション	デフォルト設定 / 値
一般	InfoView Start Page (InfoView スタートページ)	Novell ZENworks Reports フォルダ
	Document Navigation View (ドキュメントナビゲーションビュー)	フォルダ
	Set the number of objects (max.) (オブジェクト数の設定 (最大))1 ページに	10
	Document List Display (ドキュメントリスト表示)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 説明</li> <li>◆ 所有者</li> <li>◆ 日付</li> <li>◆ インスタンス数</li> </ul>
	Document Viewing (ドキュメントビュー)	In the InfoView portal (InfoView ポータル内)
	Product Locale (製品ロケール)	ZENworks コントロールセンターを起動する際に使用したロケール
	Current Time Zone (現在のタイムゾーン)	Local to Web Server (Web サーバにローカル)
Web Intelligence(Web インテリジェンス)	Preferred Viewing Locale (指定表示ロケール)	Use browser locale (ブラウザロケールの使用)
	デフォルト表示形式の選択	Interactive
	When viewing a document (ドキュメントの表示時)	Use my preferred viewing locale to format the data (指定表示ロケールを使用するデータフォーマット)
	Select a default creation/editing tool (デフォルト作成 / 編集ツールの選択)	Interactive
		<hr/> <b>注:</b> [ <i>Desktop (Web Intelligence Rich Client required)</i> ](デスクトップ <i>(Web インテリジェンスリッチクライアントが必要)</i> )] オプションはサポートされていません。 <hr/>
	デフォルトユニバースの選択	ZENworks
	Drill Options (ドリルオプション)	デフォルトでは、オプションは選択されません。
	Start drill session (ドリルセッションの開始)	On existing report (既存レポート上)
	MS Excel への保存優先度の選択	Excel での容易なデータ処理の優先順位付け

ZENworks レポートイングサーバ InfoView は、Novell 仕様に従ってカスタマイズされています。ZENworks Asset Management は、これらのカスタム設定を一部上書きします。ZENworks レポートイングサーバ InfoView で初期設定を行った場合、その設定は、現在ログイン中のセッションでのみ有効です。ただし、ZENworks レポートイングサーバ InfoView の新しいセッションを開くと、これらのカスタム設定の一部は、ZENworks AssetManagement によって上書きされます。ZENworks レポートイングサーバのインストール時に初期設定に設定されたデフォルト値が初期設定に適用されます。

Asset Management によって上書きされる初期設定は次のとおりです。

- ◆ インタフェースロケール
- ◆ 各ドキュメントに対して表示する内容 (すべてのオプション)
- ◆ デフォルトのナビゲーションビュー
- ◆ ブラウザウィンドウを閉じたとき
- ◆ デスクトップ上

# レポートの作成と管理

ZENworks Asset Managementt を使用すると、レポート定義を作成し、レポートを管理できます。

- 25 ページのセクション 3.1 「カスタムレポート定義の作成」
- 25 ページのセクション 3.2 「レポートの管理」
- 26 ページのセクション 3.3 「レポートディスカッションの管理」

ZENworks レポーティングサーバレポートの作成の詳細については、『[BusinessObjects Enterprise XI 3.1 InfoView ユーザーズガイド \(http://help.sap.com/businessobject/product\\_guides/boexir31/en/xi3-1\\_bip\\_user\\_en.pdf\)](http://help.sap.com/businessobject/product_guides/boexir31/en/xi3-1_bip_user_en.pdf)』を参照してください。

## 3.1 カスタムレポート定義の作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] をクリックします。
- 2 ZENworks レポーティングサーバの [レポーティング] パネルで、[ZENworks レポーティングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポーティングサーバ InfoView を起動します。
- 3 ZENworks レポーティングサーバ InfoView パネルで、[新規作成] > [Web インテリジェンスドキュメント] の順にクリックします。

---

注: [Desktop Intelligence Document( デスクトップインテリジェンスドキュメント)], [Analytic( 分析)], [Corporate Dashboard( 企業ダッシュボード)] オプションはサポートされていません。

---

- 4 [データ] タブで、レポートを作成する元にするユニバースオブジェクトに移動して、オブジェクトを右側のペインにドラッグします。
- 5 [クエリの実行] をクリックします。
- 6 レポートを保存します。

## 3.2 レポートの管理

レポートを変更、スケジュール、削除できます。以前のレポートのインスタンスまたは最新のインスタンスを表示することもできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] をクリックします。
- 2 ZENworks レポーティングサーバの [レポーティング] パネルで、[ZENworks レポーティングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポーティングサーバ InfoView を起動します。
- 3 必要に応じて、レポートを表示または変更します。

ZENworks レポーティングサーバ InfoView でレポートに対して実行できるタスクを理解するには、次の表を参照してください。

タスク	アクション	追加の詳細
古いレポートインスタンスの表示	[アクション] > [履歴] の順にクリックします。	表示できるレポートインスタンスを一覧にします。
レポートの最新インスタンスの表示	[アクション] > [View Latest Instance(最新のインスタンスの表示)] の順にクリックします。	最新のインスタンスとは、最も最近作成されたインスタンスです。
レポートまたはレポートインスタンスの削除	[アクション] > [削除] の順にクリックします。	事前定義されたレポートフォルダ内のレポートインスタンスを削除できるのは管理者アカウントだけです。
レポートの変更	[アクション] > [変更] の順にクリックします。	レポートテンプレート、クエリ、およびレイアウトを変更できます。
レポートのスケジュール	[アクション] > [スケジュール] の順にクリックします。	決まった時刻に自動的に実行されるようレポートをスケジュールできます。

zman コマンドラインユーティリティを使用してレポートを削除およびスケジュールすることもできます。zman コマンドラインユーティリティの使用の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「レポートコマンド」を参照してください。

### 3.3 レポートディスカッションの管理

ZENworks レポーティングサーバ InfoView の [Discussions] パネルは、すべての管理者がディスカッションを行うためのチャンネルです。このパネルは、レポートの実行 / 発行権を持つユーザが使用できます。

[Discussions(ディスカッション)] パネルを開くには、ウィンドウの右下隅の矢印をクリックします。ディスカッションの管理の詳細については、『BusinessObjects Enterprise XI 3.1 InfoView ユーザーズガイド([http://help.sap.com/businessobject/product\\_guides/boexir31/en/xi3-1\\_bip\\_user\\_en.pdf](http://help.sap.com/businessobject/product_guides/boexir31/en/xi3-1_bip_user_en.pdf))』を参照してください。

# システムレポーティングのトラブルシューティング

以降のセクションでは、ZENworks Asset Management システムレポーティングの操作中に発生する可能性のある問題の解決方法について説明します。

- ◆ 27 ページのセクション 4.1 「システムレポーティングのエラーメッセージ」
- ◆ 29 ページのセクション 4.2 「システムレポーティングのトラブルシューティング方法」

ZENworks レポーティングサーバの操作中に発生する可能性のあるその他の問題のトラブルシューティングについては、『[BusinessObjects XI Release 2 エラーメッセージガイド](http://support.businessobjects.com/documentation/product_guides/default.asp)』 ([http://support.businessobjects.com/documentation/product\\_guides/default.asp](http://support.businessobjects.com/documentation/product_guides/default.asp)) を参照してください。

## 4.1 システムレポーティングのエラーメッセージ

このセクションでは、システムレポーティングの使用時に発生する可能性があるエラーメッセージについて詳しく説明します。

- ◆ 27 ページの 「エラーが発生しました。バッチ状態は不明です。」
- ◆ 27 ページの 「30270: 「processDPCommands」 API を呼び出し中に内部エラーが発生しました。(エラー :WIS 30270) BOException caught:RESULT=80004005;WHAT=RefreshBatch が失敗しました。」
- ◆ 28 ページの 「ZENworks レポーティングサーバが管理ゾーンにありません。」
- ◆ 28 ページの 「このフォルダへの保存やカテゴリの編集を行う権限がありません。これらの権限が必要な場合は、BusinessObjects 管理者にお問い合わせください。」
- ◆ 29 ページの 「CMS <server-name> に再接続できません :6400 セッションがログオフされたか、期限切れです。(FWM 01002)」

### エラーが発生しました。バッチ状態は不明です。

ソース： ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポーティング。

説明： このエラーは、ZENworks レポーティングサーバ InfoView で、レポート生成後に親レポーティングフォルダにアクセスした場合に発生することがあります。

アクション： レポートの生成後、ZENworks レポーティングサーバからログアウトし、ZENworks レポーティングサーバ InfoView に再度ログインします。

**30270: 「processDPCommands」 API を呼び出し中に内部エラーが発生しました。(エラー :WIS 30270) BOException caught:RESULT=80004005;WHAT=RefreshBatch が失敗しました。**

ソース： ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポーティング。

説明： このエラーは、事前定義されたレポートまたは `report-deploy` コマンドを使用して発行した **Web Intelligence** レポートをスケジュールすると発生することがあります。

考えられる原因： `report-deploy` コマンドは \*.wid ファイルを **BusinessObjects** ファイルリポジトリに発行し、ドキュメントを開いてリフレッシュし、再度保存します。データベース接続タイムアウトなどの理由でリフレッシュできない場合、ドキュメントは不正な状態のまま残ります。レポートは **ZENworks** レポートニングサーバに展開されますが、スケジュールすると失敗します。

アクション： 次の操作を実行します。

- 1 **ZENworks** レポートニングサーバ **InfoView** で、スケジュールするレポートを開きます。
- 2 **[Refresh Data]** をクリックします。
- 3 レポートを保存します。
- 4 レポートをスケジュールします。レポートのスケジュール方法の詳細については、**25 ページの第 3 章「レポートの作成と管理」**を参照してください。

### **ZENworks レポートニングサーバが管理ゾーンにありません。**

ソース： **ZENworks 10 Asset Management SP2**、システムレポートニング。

説明： このエラーは、管理ゾーン内のプライマリサーバが **SLES 10 64 ビット** デバイスで、**ZENworks** レポートニングが **Windows** のセカンダリ **ZENworks** サーバにインストールされている場合に、セカンダリサーバからレポートニングを起動しようとするると発生することがあります。**ZENworks** コントロールセンターの **[レポートニング]** タブでレポートニングオプションが無効になっている可能性があります。

考えられる原因： セカンダリサーバで、**ZENworks Asset Management** のインストール後処理タスクが正常に完了しませんでした。

アクション： レポートニングを **SLES 10** プライマリサーバから起動します。

### **このフォルダへの保存やカテゴリの編集を行う権限がありません。これらの権限が必要な場合は、BusinessObjects 管理者に問い合わせてください。**

ソース： **ZENworks 10 Asset Management SP2**、システムレポートニング。

説明： このエラーは、**ZENworks** レポートニングサーバ **InfoView** で **My InfoView** にテンプレートを保存しようとしたときに発生することがあります。

考えられる原因： レポートまたはデータをお気に入りフォルダに保存する権限がありません。

アクション： お気に入りフォルダに対するレポートの作成 / 削除権を管理者から入手します。

**CMS <server-name> に再接続できません :6400 セッションがログオフされたか、期限切れです。(FWM 01002)**

ソース：ZENworks 10 Configuration Management SP2、システムレポートイング。

説明：このエラーは、ZENworks レポートイングサーバ InfoView セッションの期限が切れたため、再度 InfoView を起動しようと試みた場合に発生する可能性があります。

アクション：次を実行します。

- 1 ブラウザからクッキーを削除します。
- 2 すべてのブラウザインスタンスを閉じます。
- 3 ZENworks コントロールセンターにログインし、ZENworks レポートイングサーバ InfoView を起動します。

## 4.2 システムレポートイングのトラブルシューティング方法

このセクションでは、ZENworks 10 Asset Management システムレポートイングの使用時に発生する可能性がある問題の解決方法について説明します。

- ◆ 30 ページの「ZENworks レポートイングサーバ InfoView を起動できない」
- ◆ 30 ページの「ZENworks レポートイングサーバ InfoView を Internet Explorer で起動する場合、Web インテリジェンスドキュメントを開く際に ZENworks レポートイングサーバ InfoView がハングする」
- ◆ 30 ページの「Mozilla Firefox を使用して、ZENworks レポートイングサーバ InfoView を起動する場合、レポートの属性を変更すると、レポートが正しいデータを生成しないことがある」
- ◆ 31 ページの「英語以外のロケールから ZENworks コントロールセンターを起動すると、レポートイング権が正しく機能しないことがある」
- ◆ 31 ページの「レポートイングサーバが SLES 10 サーバにインストールされている場合、ZENworks レポートイングサーバ InfoView を使用してレポートを電子メールとして送信できない」
- ◆ 31 ページの「ZENworks レポートイングサーバが SLES 10 サーバにインストールされている場合、ZENworks レポートイングサーバ InfoView を使用してレポートをファイルの保存場所に送信できない」
- ◆ 31 ページの「ZENworks レポートイングサーバ InfoView で、新しい Web インテリジェンスドキュメントを作成できない」
- ◆ 32 ページの「ユーザが [Query - HTML] を使用してレポートを作成すると、レポートデータに #incompatible と表示される」
- ◆ 32 ページの「Linux デバイスでファイルの保存場所にレポートをスケジュールできない」
- ◆ 33 ページの「ZENworks レポートイングサーバがインストールされていない ZENworks プライマリサーバ経由で接続すると、ZENworks コントロールセンターの ZENworks レポートイングサーバ InfoView リンクが無効になる」

- ◆ 33 ページの「ZENworks レポートニングサーバ InfoView セッションがタイムアウトになったとき、ZENworks レポートニングサーバのログインコンソールから ZENworks レポートニングサーバ InfoView にログインできない」
- ◆ 33 ページの「ZENworks コントロールセンターがフランス語または中国語ロケールで起動されている場合、ZENworks レポートニングサーバ InfoView で新しい Web インテリジェンスドキュメントの作成中に SQL ビューアを起動できない」

### ZENworks レポートニングサーバ InfoView を起動できない

ソース：ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートニング

考えられる原因：ZENworks レポートニングサーバがインストールされている ZENworks サーバに対してファイアウォールがオンになっています。

アクション：ファイアウォールを無効にし、ZENworks レポートニングサーバ InfoView を再起動します。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management レポートニングサーバインストールガイド』の「ファイアウォールの使用」を参照してください。

### ZENworks レポートニングサーバ InfoView を Internet Explorer で起動する場合、Web インテリジェンスドキュメントを開く際に ZENworks レポートニングサーバ InfoView がハングする

ソース：ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートニング。

説明：ZENworks レポートニングサーバ InfoView を Internet Explorer 内で起動すると、Web インテリジェンスドキュメントを開く際に ZENworks レポートニングサーバ InfoView がハングし、次のメッセージが表示されます。

Please wait while the document is being processed.

アクション：レポートニングサーバを信頼済みサイトのリストに追加します。

- 1 Internet Explorer で [ツール] > [インターネットオプション] の順にクリックします。
- 2 [セキュリティ] タブ > [信頼済みサイト] > [サイト] の順にクリックします。
- 3 レポートニングサーバのサイトアドレスを指定します。
- 4 [追加] をクリックします。
- 5 [OK] を 2 回クリックします。

### Mozilla Firefox を使用して、ZENworks レポートニングサーバ InfoView を起動する場合、レポートの属性を変更すると、レポートが正しいデータを生成しないことがある

ソース：ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートニング。

アクション：推奨バージョンの Internet Explorer を使用して ZENworks レポートニングサーバ InfoView を起動し、必要に応じて属性を変更してからレポートを生成します。Internet Explorer の推奨バージョンの詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「管理ブラウザ要件」を参照してください。

## 英語以外のロケールから ZENworks コントロールセンターを起動すると、レポートイン グ権が正しく機能しないことがある

ソース： ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートイング。

アクション： 英語ロケールを使用して ZENworks コントロールセンターを起動しま  
す。

## レポートイングサーバが SLES 10 サーバにインストールされている場合、ZENworks レ ポートイングサーバ InfoView を使用してレポートを電子メールとして送信できない

ソース： ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートイング。

説明： ZENworks レポートイングサーバが SLES 10 サーバにインストールさ  
れている場合、ZENworks レポートイングサーバ InfoView を使用して  
レポートを電子メールとして送信しようとする ( [ヘッダ] パネル  
から、[送信] > [To Email( 電子メールへ)] の順にクリック)、次のエ  
ラーメッセージが表示されることがあります。

The destination plugin required for this action is disabled.  
If you require this functionality, please contact your system  
administrator.

アクション： なし

## ZENworks レポートイングサーバが SLES 10 サーバにインストールされている場合、 ZENworks レポートイングサーバ InfoView を使用してレポートをファイルの保存場所に 送信できない

ソース： ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートイング。

説明： ZENworks レポートイングサーバが SLES 10 サーバにインストールさ  
れている場合、ZENworks レポートイングサーバ InfoView を使用して  
レポートをファイルの保存場所に送信しようとする ( [ヘッダ] パ  
ネルから、[送信] > [To File Location( ファイルの場所へ)] の順にク  
リック)、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

The destination plugin required for this action is disabled.  
If you require this functionality, please contact your system  
administrator.

アクション： なし

## ZENworks レポートイングサーバ InfoView で、新しい Web インテリジェンスドキュメ ントを作成できない

ソース： ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートイング

説明： ZENworks レポートイングサーバ InfoView で、新しい Web インテリ  
ジェンスドキュメントの作成中に [クエリの実行] をクリックする  
と、エラーが発生することがあります。

考えられる原因： Web Intelligence ドキュメントの [レポートパネル] 初期設定が  
[Query - HTML] に設定されています。

アクション: Web Intelligence ドキュメントの [レポートパネル] 初期設定を [Java Report Panel] に変更します。

- 1 ZENworks レポーティングサーバ InfoView を起動します。
- 2 [初期設定] をクリックします。
- 3 [Web Intelligence ドキュメント] タブをクリックします。
- 4 [Java Report Panel] を選択します。
- 5 [適用] > [OK] の順にクリックします。

### ユーザが [Query - HTML] を使用してレポートを作成すると、レポートデータに #incompatible と表示される

ソース: ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポーティング。

考えられる原因: レポート作成時に、Web Intelligence ドキュメントの [レポートパネル] 初期設定が [Query - HTML] に設定されています。

アクション: 次の操作を実行して、Web Intelligence ドキュメントの [レポートパネル] 初期設定を [Java Report Panel] に変更します。

- 1 ZENworks レポーティングサーバ InfoView を起動します。
- 2 [初期設定] をクリックします。
- 3 [Web Intelligence ドキュメント] タブをクリックします。
- 4 [Java Report Panel] を選択します。
- 5 [適用] > [OK] の順にクリックします。
- 6 レポートを再度作成します。

### Linux デバイスでファイルの保存場所にレポートをスケジュールできない

ソース: ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポーティング。

説明: Linux デバイスでファイルの保存場所にレポートをスケジュールしようとする、レポートのステータスが「失敗」と表示されます。[失敗] をクリックすると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
destination directory error. CrystalEnterprise.Disk  
unmanaged:
```

考えられる原因: [スケジュール] パネルでユーザ名とパスワードが指定されています。

アクション: Linux デバイスでファイルの保存場所にレポートをスケジュールする場合は、[ユーザ名] フィールドと [パスワード] フィールドを空白のままにします。

考えられる原因: Linux デバイス上の ZENworks ユーザが、宛先のファイルの保存場所にファイルを書き込む権限を持っていません。

アクション: Linux デバイス上の ZENworks ユーザが宛先のファイルの保存場所にファイルを書き込む権限を持っていることを確認します。

## ZENworks レポートニングサーバがインストールされていない ZENworks プライマリサーバ経由で接続すると、ZENworks コントロールセンターの ZENworks レポートニングサーバ InfoView リンクが無効になる

ソース：ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートニング。

考えられる原因：デバイスが、ZENworks レポートニングサーバがインストールされていてゾーン内にあるデバイスの DNS 名を解決できません。

アクション：デバイスの hosts ファイルに、ZENworks レポートニングサーバがインストールされているデバイスの IP アドレスを入力します。

hosts ファイルは、Windows では c:\WINDOWS\system32\drivers\etc\、Linux では /etc/hosts にあります。

## ZENworks レポートニングサーバ InfoView セッションがタイムアウトになったとき、ZENworks レポートニングサーバのログインコンソールから ZENworks レポートニングサーバ InfoView にログインできない

ソース：ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートニング。

アクション：ZENworks レポートニングサーバ InfoView を ZENworks コントロールセンターから起動します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks レポートニングサーバの [レポートニング] パネルで、[ZENworks レポートニングサーバ InfoView] をクリックします。

## ZENworks コントロールセンターがフランス語または中国語ロケールで起動されている場合、ZENworks レポートニングサーバ InfoView で新しい Web インテリジェンスドキュメントの作成中に SQL ビューアを起動できない

ソース：ZENworks 10 Asset Management SP2、システムレポートニング。

説明：ZENworks レポートニングサーバがフランス語または中国語で起動されている場合、新しい Web インテリジェンスドキュメントの作成中にクエリツールバーの [View SQL(SQL の表示)] をクリックするとエラーが発生することがあります。

考えられる原因：[Web インテリジェンス] の初期設定が [インタラクティブ] に設定されています。

アクション：次を実行します。

- 1 ZENworks レポートニングサーバ InfoView を起動します。
- 2 ツールバーの右上隅の [初期設定] をクリックして、[初期設定] ページを表示します。
- 3 [Web Intelligence(Web インテリジェンス)] をクリックします。
- 4 デフォルトの作成 / 編集ツールとして [詳細] を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

